



〔創刊〕1984年10月
 〔発行日〕毎月1日発行
 〔発行部数〕17,000部
 〔判型・頁数〕B5判・約170頁
 〔組仕様〕本文横組・縦2段
 〔印刷〕オフセット印刷
 〔製本〕無線とじ
 〔定価〕**2,860円**
 (本体2,600円+税10%)

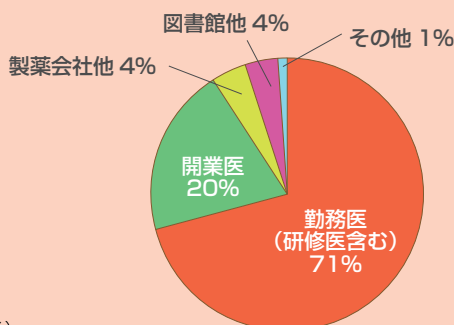
【発行】
文光堂
 〒113-0033
 東京都文京区本郷7-2-7
 TEL 03-3813-5478
 FAX 03-3813-7241
<https://www.bunkodo.co.jp>

月刊「Medical Practice」広告掲載のご案内

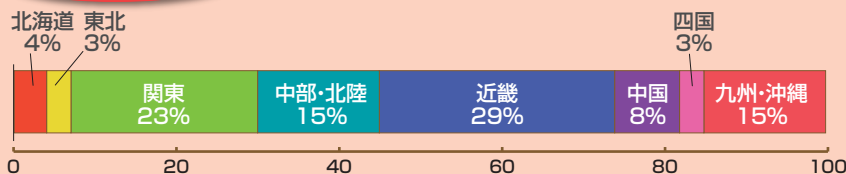
月刊「Medical Practice」は、実地医家のためのプラクティカルな内科総合誌として、「よりわかりやすく、具体的に役立つ」を編集方針に、日常診療に直接結びつく疾患を毎月特集し、第一線の医療で必要な実用的な知識を幅広く紹介し続けております。また、特集テーマに関連した座談会を設けて毎月掲載するとともに、連載やワンポイントアドバイスのコーナーでは、勤務医、開業医、研修医に直接役立つ魅力的な内容を提供し、多くの先生方から信頼を得ております。つきましては、ぜひ貴社の広告・宣伝スペースとして本誌をご活用くださいますようお願い申し上げます。

【読者分布】

●職種別読者分布



●地域別読者分布 (海外除く)



●広告料金表

表4 (4色)	定価 440,000円 (本体400,000円+税10%)	前付 (4色) 1ページ	定価 209,000円 (本体190,000円+税10%)
表2 (4色)	定価 352,000円 (本体320,000円+税10%)	前付 (2色) 1ページ	定価 110,000円 (本体100,000円+税10%)
表3 (4色)	定価 275,000円 (本体250,000円+税10%)	記事中 (2色) 1ページ	定価 71,500円 (本体65,000円+税10%)
前付 / 表2対向 (4色)	定価 242,000円 (本体220,000円+税10%)	記事中 (2色) 1/2ページ	定価 44,000円 (本体40,000円+税10%)
前付 / 本扉対向 (4色)	定価 242,000円 (本体220,000円+税10%)	綴込1枚	定価 143,000円 (本体130,000円+税10%)

●**広告締切** (申し込み・広告原稿締め切り日) 発行日の前々月25日

●広告原稿

サイズ: 1頁 天地220mm×左右150mm, 1/2頁 天地110mm×左右150mm, プリード 天地257mm×左右182mm
 形態: 完全データ入稿

【記事体広告料金】〈データ入稿の場合〉2色1頁:定価143,000円(本体130,000円+税10%), 4色1頁:定価275,000円(本体250,000円+税10%)
 〈完成版納品の場合〉綴込1枚:定価220,000円(本体200,000円+税10%)

【綴込記事広告についての特記事項】

- 文中に広告である旨を表示してください。例)○○株式会社提供
 - 事前に、著者名(対談者名)・タイトル・内容を編集部あてにご提出ください(納品締切の1ヶ月前頃をお願いします)。
- *査読の結果、掲載をお断りする場合がございます。

●お申し込み先/お問い合わせ先

株式会社 メディカルブレン
 〒113-0033 東京都文京区本郷3-24-2
 TEL: 03-3814-5980 FAX: 03-3814-5846
 E-mail: medicalbrain@mbr-web.com

株式会社 福田商店広告部
 〒540-0024 大阪市中央区南新町2-4-3 ゲラントビル11F
 TEL: 06-6941-5600 FAX: 06-6941-5605
 E-mail: info-f@adfukuda.jp

【本誌の概要】

代表的な内科疾患を毎月特集し、日常診療に有用な情報を幅広くガイドする内科総合誌。特集テーマに関連した座談会や、最新の医学情報・話題も取り上げ、わかりやすく実践的な内容となっている。

【編集委員】

Medical Practice 編集委員会

【読者対象】

勤務医、(内科)開業医、研修医ほか



本誌の特色

- 毎号、第一線で活躍している医師が特集を企画。非専門の医師でも理解できる内容になるよう、編集会議にてじっくり検討!
- 常に医師を悩ませる数々の疾患に対して、どのように診断をつけ、いかに治療していくべきか、最新の情報を交えわかりやすく解説!
- 日常診療に必要な、具体的かつ実践的な知識を幅広くガイド!
- 理解の助けとなるような図・表を豊富に掲載し、ポイントが上部にまとめられた、2色刷の読みやすい誌面を提供!

本誌の構成

わかりやすく読みやすい2色刷り(一部4色刷り)の誌面

◎〈扉(巻頭言)〉+〈座談会〉+〈特集記事〉+〈Self-assessment test〉+〈連載〉+〈One Point Advice〉

特集

毎月、代表的な内科疾患を特集テーマとして、日常診療に直接結びつく疾患の総説と診断手法、臨床医の腕の見せ所となる具体的な治療法の解説に力を注ぐ。旬なテーマや新しい知見などを盛り込み最新の情報を提供。

(キーセンテンス)

各ページの上部に、ポイントが素早く簡潔に理解できるような要点を箇条書きに、わかりやすさを追求したレイアウト。

連載

日常診療に必須である各種の診断法、検査法、治療法などを専門家の先生にわかりやすく解説いただいている。臨床に直結した連載を多数掲載。

骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015の実地診療への活用

竹内靖博 慶応義塾大学医学部内科学系/なけうちけいすけ

はじめに

骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版は、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会(日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、骨粗鬆症財団、委員長 折茂 豊)により2006年版、2011年版に引き続いて作成されたものである。

本ガイドラインは、「Minds 診療ガイドライン」による2007年10月1日施行のガイドラインを基本とし、骨粗鬆症に関する臨床的および疫学データの専門家16名によりガイドライン作成委員会を設け、日本骨粗鬆症学会との連携により、骨粗鬆症における現状の把握と最新知見の統合、分野・項目ごとに clinical question (CQ) が設定された。そして、それらに答えるためのエビデンスが検索、収集され、評価と推奨が記載されている。

根拠となる文献検索および選定

(エビデンスの基準(レベル))

- I システムティックレビュー/メタアナリシス
- II 1つ以上のランダム化比較試験による
- III 非ランダム化比較試験による
- IV 分析学的研究(コホート研究や症例対照研究)による
- V 記述研究(症例報告やケース・シリーズ)による
- VI 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見(毎月・月後による「診療ガイドライン」の作成の手順 Ver.4.3より)

骨粗鬆症治療法の記載と評価

2014年10月23日までに査読された薬物が記載されている。また、それらの薬物について査読された論文もしくは厚生労働省薬事審議結果報告書に記載されている内容について評価されている。上記の日付以降に承認された薬物については、本ガイドラインには記載されていない。

骨粗鬆症の診断と鑑別

骨粗鬆症の診断は、骨質の減少とそれに伴う骨折の発生を特徴とする。したがって、治療方針は、骨折発生の高い患者を抽出し、そのような患者に対して骨粗鬆症の確立された治療法を実施することである。また、加齢に伴って骨質が減少する傾向があるため、本ガイドラインは、骨質の減少を抑制するための治療法を推奨している。

骨粗鬆症の診断と鑑別

骨粗鬆症の診断は、骨質の減少とそれに伴う骨折の発生を特徴とする。したがって、治療方針は、骨折発生の高い患者を抽出し、そのような患者に対して骨粗鬆症の確立された治療法を実施することである。また、加齢に伴って骨質が減少する傾向があるため、本ガイドラインは、骨質の減少を抑制するための治療法を推奨している。

One Point Advice

骨粗鬆症の診断と治療をいかにして骨折予防、QOLの維持につなげるか?

山内敬正(さやまこうしげ) 1992年、東京大学医学部卒業。東京大学医学部内科学科助教授。1998年、医学博士。日本骨粗鬆症学会特別研究員などを歴任。2003年より東京大学 糖尿病・代謝内科 文部科学省特任教授。2004年10月より、東京大学22 施設統合センター総合診療学センター 副センター長。2006年12月より、順天堂大学大学院医学研究科スポーツロジックセンター 客員教授。2008年12月より東京大学 糖尿病・代謝内科 講師。2010年12月より、同 教授。2018年7月より同 教授。現在に至る。

日本糖尿病学会は日本老年医学会との合同委員会を設立し、「高齢者糖尿病診療ガイドライン2017」として、高齢者糖尿病診療ガイドラインを改定した。年齢のみならず、認知機能や身体機能(基本的ADLや手動ADL)、腎機能を、重症低血糖を合併される重症糖尿病の患者に注目し血糖コントロール目標を示していますので、ご活用ください。

実際には、骨、筋、神経、軟骨、そのような組織が年齢とともに徐々に進行性変化を起こし、それによって機能に低下して、運動機能が低下するという概念です。例えば、骨密度が低下すると同時に、軟骨の弾性度も下がります。筋肉のボリュームも減るのは、周知の事実であり、すべての組織は連動しているというふうになっています。

座談会

最大の特色の座談会は手間をかけ丁寧に編集。編集委員の中からあえて非専門のドクターを司会におき、読者目線でわかりやすく専門的すぎない内容になるように配慮。現場の生の声がふんだんに盛り込まれた、日常診療に役立つ内容となっている。

中村 節郎 千代田大学大学院医学研究科 内科 准教授
大島 精司 千代田大学大学院医学研究科 整形外科 教授

One Point Advice

骨粗鬆症の診断と治療をいかにして骨折予防、QOLの維持につなげるか?

山内敬正(さやまこうしげ) 1992年、東京大学医学部卒業。東京大学医学部内科学科助教授。1998年、医学博士。日本骨粗鬆症学会特別研究員などを歴任。2003年より東京大学 糖尿病・代謝内科 文部科学省特任教授。2004年10月より、東京大学22 施設統合センター総合診療学センター 副センター長。2006年12月より、順天堂大学大学院医学研究科スポーツロジックセンター 客員教授。2008年12月より東京大学 糖尿病・代謝内科 講師。2010年12月より、同 教授。2018年7月より同 教授。現在に至る。

日本糖尿病学会は日本老年医学会との合同委員会を設立し、「高齢者糖尿病診療ガイドライン2017」として、高齢者糖尿病診療ガイドラインを改定した。年齢のみならず、認知機能や身体機能(基本的ADLや手動ADL)、腎機能を、重症低血糖を合併される重症糖尿病の患者に注目し血糖コントロール目標を示していますので、ご活用ください。

実際には、骨、筋、神経、軟骨、そのような組織が年齢とともに徐々に進行性変化を起こし、それによって機能に低下して、運動機能が低下するという概念です。例えば、骨密度が低下すると同時に、軟骨の弾性度も下がります。筋肉のボリュームも減るのは、周知の事実であり、すべての組織は連動しているというふうになっています。